

## 経営情報学会 2023 年度年次大会報告

黄 婷婷 (こう ていてい) 武庫川女子大学  
向日恒喜 (むかひ つねき) 中京大学

### 1. 大会概要

2023 年度の年次大会が、2023 年 6 月 10 日 (土) の午後に Zoom とバーチャル空間の oVice を使って、「DX 時代の多様性と心理的安全性」をテーマとして開催されました。大会では、サイボウズ株式会社チームワーク総研所長の和田武訓氏をお招きしての招待講演と、ポスター発表セッションのプログラムが設けられました。

大会には 196 名に申し込みをいただきました。昨年度は oVice のみを使っての開催で、偶発的な対話が生まれやすいなどの好意的な意見をいただいた一方で、操作がしづらいなどの否定的な意見もいただきました。そこで、今年度は一方向的な招待講演は Zoom、双方向的なポスター発表セッションは oVice で開催することといたしました。その結果、昨年度よりも多くの方々にご参加いただきました。

### 2. 招待講演

招待講演では、サイボウズ株式会社チームワーク総研所長の和田武訓氏をお招きし、「100 人 100 通りの働き方〜ワクワク働くための情報共有と心理的

安全性〜」とのタイトルで講演いただきました。サイボウズ社は、コロナ禍以前から、リモートワークや最長 6 年間の育児・介護休業、副業 (複業) の自由化など、働き方の多様化にチャレンジしています。また、和田氏ご自身もサイボウズ社に入社後、一度転職し、再入社したキャリアを持っておられます。今回、このような多様な働き方の背後にある心理的安全性に焦点を当ててお話いただきましたが、以下に概要を紹介いたします。

サイボウズ社には「出戻り」、「育休」ができる安心感が醸成されていますが、その土台には、理想への共感、多様な個性の重視、公明正大、自立と議論といった「風土」、在宅勤務、人事評価と給与、育児休業、採用・退職、副業などの「制度」、情報共有クラウド、ビデオ会議、セキュリティ、リアルオフィスなどの「ツール」があります。「ツール」については、翻訳や AI などのテクノロジーの進化の下、ツールで何がどこまでできるかを知ることも大切にし、また「風土」については、「弱音」、「不安」を言える、子供のように躊躇なく声や手が上げられる風土を大切にしています。そしてその「風土」、「制度」、「ツール」を土台として情報をフラットにすることを心がけ、「たて」、「よこ」、「場」、「場と



和田武訓氏 (右上) による招待講演

場」の4つの情報共有のルートを設定するとともに、ザツダンの場を大切にしています。さらに情報を隠さないようにすることで組織内の格差がなくなり、フラットな組織を実現しています。

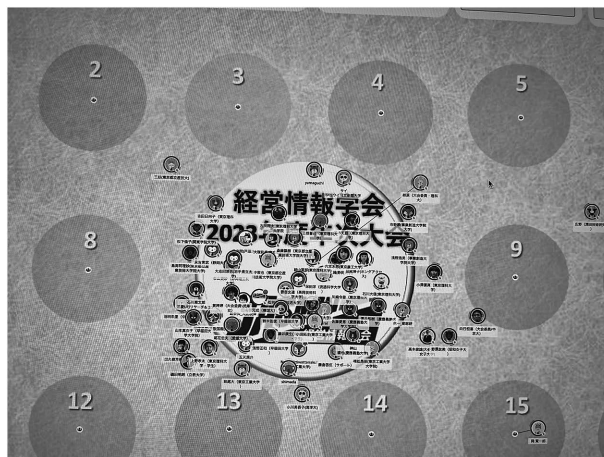
以上の内容のお話に対して、フロアから社員の個性の把握や、個性的な社員への対応など、さまざまな質問が出されました。サイボウズ社の取り組みについては、多様な働き方に焦点が当てられがちですが、その背後に情報をフラットにする取り組みがあるとの内容は、経営情報を冠する本学会に非常にマッチした内容でした。

### 3. ポスター発表セッションと学生萌芽研究部会ブース

昨年に引き続き、ポスター発表セッションと「優秀萌芽研究賞」の授与を実施いたしました。このセッションは新進の研究へのフィードバックを提供し、それにより秋の全国研究発表大会に向けて研究を深めるきっかけを創出することを主な目的としています。今年は45件もの申し込みが寄せられ、セッションは非常に活気に満ち溢れていました。その中には、システムユーザのスキルレベルを推定するためのロジックの検討、企業の商品名変更の意思決定メカニズムの解析、観光行動モデルの構



ポスター発表セッション



学生萌芽研究部会ブース

築など、現代社会の重要な課題に対する独自の視点と解決策を示すものも含まれていました。アプローチとしては、事例研究、調査研究、シミュレーションなど、多岐にわたる手法が用いられました。例えば、特許文書を用いた製薬企業の技術領域の集約化と研究開発効率の分析や、SAT ベースの手法による宣言型プロセスモデルの発見など、実証研究から理論的な模型構築まで幅広く行われました。このような多様なテーマとアプローチを通じて、セッションは情報技術と経営の交差点における新しい知見を生み出す場となりました。さらに、このセッションは学生だけでなく、教員や社会人も発表者として参加し、学問と現場の知識が交錯する充実した場となりました。特に、oVice を使用した開催形式により、参加者は気軽に各種のポスター発表を巡り、プレゼンテーションを聞き、発表者と交流する機会を得ることができました。

審査の結果、3 件の研究が「優秀萌芽研究賞」に選出されました。受賞した研究は、プロジェクトのパフォーマンス要因、卓越したデザインの生成、そして SaaS の意思決定モデルの構築といった、現代ビジネス環境を反映した主題に焦点を当てていました。これらの研究は、シミュレーション、データ分析、ネットワーキングといった高度なスキルを用いて調査・分析され、特に複雑な問題解決に取り組む現代企業にとって重要な視点を提供しており、今後の発展が期待され、続く研究の展開が楽しみです。

今回も前回と同じく、ポスターセッションでは学生萌芽研究部会のブースを設けることにしました。この部会の目標は、学生会員間のネットワーキ

ングと交流を通じて、さまざまな革新的な研究を生み出すことです。多くの学生がポスターセッションに参加することから、私たちはこの部会の活動を紹介し、部会メンバーと他の学生会員との交流の場を提供するためにブースを設けることにしました。ポスターセッションが開催中はブースに来る人は少なかったですが、セッションが終了した後のネットワーキングの時間には、たくさんの学生がブースに足を運んでいました。

#### 4. おわりに

2020 年度以降、年次大会はオンラインでの開催となり、また 2021 年度から、講演会とポスター発表セッションの 2 本立での開催、昨年度は oVice での開催、本年度は Zoom と oVice での開催と、毎年、試行錯誤を重ねつつ、大会を運営しています。その甲斐もあってか、上述したようにポスターセッションでは予想以上の申し込みをいただきました。ただ、新たなチャレンジをしていることから、想定外のことが起こることもあり、参加者の方々にはご迷惑をおかけした点もあるかもしれません。機会がございましたら、年次大会の感想などを大会担当理事に寄せていただければ、今後の参考とさせていただきます。

今回の大会は講演者、発表者、参加者、そして準備に関わってくださった多くの方々のご協力によって無事終えることができました。この場をお借りして、大会に関わってくださった皆様に、御礼申し上げます。